

高度管理型魚類養殖技術の研究開発

— サブテーマ1 水深可変型養殖生産システムの研究開発 —

21年度の研究概要

新たな高級養殖魚種であるイシガキダイ・マハタについて、高水温期に発生するウイルス性疾病による減耗を防止し、安定的な生産体制を確立するため、水温等の状況に応じた最適水深へ生簀を昇降できる「水深可変型養殖生産システム」の研究開発を開始しました。

水深可変部生簀(3×3×3m)



イシガキダイ



マハタ 自発摂餌装置



マハタ



22年度の研究方向

イシガキダイは、ウイルス性疾病に対して発症の遅延効果が認められた。また、マハタは、中層飼育を行うことにより、成長が良好となったため、飼育水深を変えることにより、安定的な生産体制構築の可能性が高まりました。

次年度は、生簀の上昇時の減圧による斃死防止と、効率的な中層給餌手法の確立を目指します。